

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	MIND after school		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		2026年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16 (回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 13日		2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境・体制の整備については、適切な環境（バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮がなされており、生活空間は清潔で、心地よく過ごせる空間を提供している。また、子どもの状態等に応じて、職員の配置を十二分に配置している。	清潔な環境・心地よく過ごせる空間づくりの為に始業時と終了時による清掃・整備の徹底。子どもの体制により、指導員の配置を考え、その配置が一番有効なように考え、職員や指導員の配置を実施している。	現在、利用している子どもの状態に合わせた資質を持った、職員の資質向上や育成に向けて、OJTの実施と外部研修等への積極的な参加により、職員・指導員等の資質向上やスキルアップに努める。
2	業務改善においては、PDCAを常に回して、必要に応じて修正を加えながら、よりよい目標の達成に向けて努力している。そのためにも職員や指導員に対して、内部での研修や外部研修の情報提供と研修の受講の機会を設けている。	事業所内の研修（伝達研修等）や外部研修の受講により、職員・指導員の資質の向上に努め研修を受講しただけでなく伝達講習により、他の職員や指導員と情報の共有を図っている。それにより時代の流れに沿った支援に繋がっている。	法改正や最善の支援を意識し、事業内の研修や外部研修、事業所内での積極的なOJTの計画・実施を行う。さらには毎日のミーティングの中で、現状に満足することなく向上心を持ってミーティングに参加する。
3	関係機関や保護者との連携では、保護者との連絡（連絡帳やLINEで、細やかに保護者と連携、また関係機関（相談員、学校、病院等）とも連携し、子どもを中心に関係機関・保護者・事業所が強く連携し、5領域を意識し支援する。同時に学力の向上も支援し、子どもたちが一番良い方向に進むように支援する。	保護者からのLINEでの連絡については、できる限り早急な返信に努めている。また、Instagramに事業所内での子どもの様子を載せるなど保護者に安心をあたえるような取り組みも活発に行っている。また、送迎時や保護者が来所された時などに積極的な声掛けなどにより、保護者との関係性の構築に努めている。	保護者会など保護者同士の交流や情報交換等を積極的に行い保護者の悩みや不安の解消に努める。また、登・退園システム構築により、保護者の安心を与える取組みを行う。送迎時や保護者が来所した際に積極的に交流し、今まで以上に強く連携し、保護者からの信頼の獲得に努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前の子ども（児童発達支援）の受け入れ（多機能型）での支援体制があるが、（児童発達支援）の利用者が、今までに対象となる利用者がいないので、その部分（児童発達支援）については、やや経験不足の面がある。利用者が、ある状況を想定してシュミレーション等を行い希望があった時に備え準備して行きたい。	学習支援に重点を置いて支援しているので、就学前（児童発達支援）の子どもの希望がない現状がある。就学前（児童発達支援）の子どもたちへの支援内容の充実を図る必要があるのと、（児童発達支援）の支援内容を広く広報する必要があると考えられる。	スタッフ全員で、協議・研修を実施し、就学前（児童発達支援）の支援内容の充実を図ると同時に、その支援内容をHPやInstagram等を利用した積極的な広報を行っていく。また、外部の研修や講習等に積極的に参加し、伝達講習を事業所内で実施し、スタッフの資質の向上にも努める。
2	非常事態の対応について、事故対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアル等の策定をしており、HPにも掲載しているが、保護者等に周知がやや弱い、また業務継続計画（BCP）についても各マニュアルと同じくHPにも掲載されているが周知がやや弱い。	非常事態の対応について、事故対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアル等・業務継続計画（BCP）をHP上に掲載していても、その項目を見てももらわないと周知できていない現状がある。避難訓練や対応訓練を年に複数回、計画的に実施して行きたい。	非常事態の対応について、事故対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対応マニュアル等・業務継続計画（BCP）をHP上に掲載と同時に、ペーパーで保護者にも配布することにより、周知徹底を図りたい。また、避難訓練や対応訓練を年に複数回、計画的に実施して行きたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 MIND after school

公表日 2026年5月1日

利用児童数 2026年3月30日 18

回収数 14

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	86	0	0	14		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	79	7	0	14		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	93	0	0	7		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	93	0	0	7		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	93	0	0	7		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100	0	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100	0	0	0		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	72	14	0	14		
11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	37	14	14	35	他の子供たちと交流する場を設けてもらとうれしい	今後は放課後児童クラブ等との交流の機会を検討していきたい	
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	58	21	0	21		今後、積極的に家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供等を行いたい
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	100	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	72	21	0	7		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100	0	0	0		
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	52	14	14	21	保護者同士の交流の機会を持ってほしい	保護者やきょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援を行いたい	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100	0	0	0			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100	0	0	0	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	72	14	0	14	LINEや通信ソフトの活用により、連絡体制の強化に努める
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	93	0	0	7	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	79	7	0	14	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	78	5.5	0	16.5	今年度は、すでに二回目の火災等を想定した避難訓練実施済
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100	0	0	0	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	93	0	0	7	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100	0	0	0	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	79	21	0	0	子供たちが、楽しみにするように更に工夫する
	29	事業所の支援に満足していますか。	93	7	0	0	100%の満足が得られるように取り組んでいく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		MIND after school				公表日	2026年 5月 1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100		個人が、十分に活動できるスペースの確保を行っている。	適切である。同時に安全で安心して過ごせる居場所の提供に努める。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100		小学生・中学生・高校生それぞれに合った指導員・教員が個別で、寄り添った指導を行っている。	職員の配置数は、適切である。今後ともに良好な状態を継続して行く。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100		肢体不自由の利用者が、安全・安心して過ごせるように、トイレ改修や出入り口の段差の解消を講じている。	バリアフリーなどの設備を設置し、生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100		常に清掃や感染症予防を意識し消毒等を行い、清潔な環境の維持に努めている。	生活空間はもとより、その他の施設や設備も清潔で心地よく過ごせる空間になるよう努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100		移動できるパーテーションで、空間をつくり利用者が、落ち着き集中しやすい場所の設定をしている。	必要に応じて、個別の指導ができるよう設備の充実を図りたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100		毎日のミーティングの中で、個々の利用者の状況等を職員が、把握し共通の理解を図り、個々の利用者に応じた支援に努めている。	今後一層の業務改善をするうえで、PDCAサイクルを回し、最善の支援に努めて行く。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		保護者からの評価表を基に、保護者ニーズに応じるように改善点を職員で、検討・実施に向け努力している。	保護者からの評価表は、職員で共有し細かく分析し、より良い支援に繋げたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		職員間の意志の疎通を図るべく、毎日のミーティング以外にも、必要に応じて臨時的ミーティングを行っている。	毎日の職員ミーティングの中で、適切な議題を設定し、議論しその結果を業務改善に繋げる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100		保護者からの評価や市町村や府の指導等に従い業務改善に努めている。	広く外部評価を受け、業務改善に繋げて行く。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100		それぞれの職員が、多くの研修に参加し、得た知識や情報を事業所内で、伝達研修を行い職員自体のスキルアップに努めている。	職員のさらなるスキルアップのために、より多くの研修や事業内研修・伝達研修を実施して行く。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100		適切に支援プログラムが、作成されている。	支援プログラムを作成段階で、より多くの情報を聞き取り、それを反映した支援プログラムにしていきたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100		アセスメントについては、適切に行い、利用者・保護者のニーズを分析し、計画を作成している。	アセスメント、モニタリングを通じて利用者や保護者のニーズを的確に掴み、指導計画に反映したい。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100		毎日のミーティングの中で、個々の利用者の状況等を職員が、把握し共通の理解を図り、個々の利用者に応じた支援に努めている。	支援計画を基に利用者に関わる職員が、内容を共通理解し、意見を反映し利用者にとって、最善の計画に繋げる。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100		支援計画の内容については、職員が管理者の立会いの下閲覧できる環境をつくり、支援計画内容の共有に努めている。	支援計画については、管理責任者を中心に職員全員で、作成することをしたい。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100		フォーマル・インフォーマルのアセスメントの活用により、適応行動の確認に努めている。	アセスメントに置いて、より詳細に聞き取りや行動観察を行い支援計画や日々の支援に反映したい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえ、こどもの支援に必要な項目を適切に設定し具体的な支援が設定されている。	放課後等デイサービスガイドラインを、さらによく理解し、利用者の適切な支援項目を設定し利用者に対して、より良い具体的な支援内容に繋げる。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100		毎日のミーティングで、個々の利用者の状況等を職員が、把握し共通理解を図り、個々の利用者に応じた支援計画に繋げている。	支援計画を立案する上で、毎日のミーティングでの意見を反映させて行く。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100		個々の状況に合わせたプログラムを作成、プログラムの内容については、適時見直しを行っている。	充実した支援計画になるように、適時の見直しを行う。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100		こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援を行っている。	利用者の状況把握をさらに詳細にし、充実した放課後等デイサービス計画に繋げる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100		午前中に職員ミーティングを行い、その日の支援内容や情報の共有に努めている。	チームで連携して支援を行うことを、意識して支援活動に取り組んで行く。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100		支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	支援終了後・翌日の朝のミーティングで、支援内容の充実にも努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100		日々の支援内容（課題）を個人ファイルにファイリングして、それを翌日にチェックして支援の内容向上に繋げている。	ファイリングした内容を、職員で共有するとともに、支援計画にも反映させ充実した支援内容に繋げて行く。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100		定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っている。	定期的なモニタリングにおいては、適切な回数を設定してより良い、サービスに繋げて行く。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100		放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っている。	個々に応じた放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行う。組み合わせの再検討も行う。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100		利用者が自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っている。	利用者が自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行い自立を促す支援に努める。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100		障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画している。	関係機関とさらに連携強化し、利用者の状況把握に努め、より良い支援に努める。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100		地域の関係機関との連携については、特に学校との連携を充実に行っており、それ以外の機関とは、必要に応じて連携している。	地域の関係機関との連携については、特に学校との連携を充実に行っている。今後それ以外の機関とも、積極的に連携したい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100		学校の年間行事予定表や送迎予定表等を直積受け取り、確認し送迎時のトラブルがないように留意している。	学校の年間行事予定表や送迎予定表等を直積受け取り、確認し送迎時のトラブルがないように留意して行く。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100		対象となる利用者が、いないため。	対象となる利用者が、在籍するようになった時に対応したい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100		対象となる利用者が、いないため。	対象となる利用者が、在籍するようになった時に対応したい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、スーパーバイザーからの助言を受けたり、研修等を受講する機会を設けている。	地域の児童発達支援センターとの連携強化、助言や研修の機会も増やして行く。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がなく交流していない。	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動への参加等の機会を増やす。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100		自立支援協議会へ積極的に参加し、連携も図っている。	全ての職員が、自立支援協議会へ積極的に参加し、連携強化を図って行く。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100		日頃からこどもの状況をLINE等を通じ、保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	日頃からこどもの状況をLINE等を通じ、保護者と伝え合う。また、直接面談でも、発達の状況や課題について共通理解を持っている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100		ペアレント・トレーニング等行える職員が、3名在籍し、適切なアドバイスや家族支援等を実施している。	ペアレント・トレーニング等行える職員が、3名在籍を積極的に活動し、適切なアドバイスや家族支援等を実施している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		契約時やモニタリング時において、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	これまで以上に、運営規定や支援プログラム、利用者負担等を丁寧に説明して行く。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		保護者・利用者の意思を尊重し、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえ、支援計画を作り保護者・利用者の意思確認を実施。	保護者・利用者の意思を尊重し、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえ、支援計画を作り保護者・利用者の意思確認を実施。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100		支援計画の内容を示しながら説明を行い、同意を得ている。	さらに丁寧に支援計画の内容を示しながら説明を行い、同意を得て行く。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		保護者からの相談があった時は、来所や電話で面談・助言をしている。	保護者からの相談があった時は、来所や電話・訪問等を行い面談・助言をして行く。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		100	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援。また、兄弟同士で交流する機会を設ける等の支援をしていない。	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援。また、兄弟同士で交流する機会を設ける等の支援を今後企画・実施したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		利用者・保護者の苦情等について、対応する体制を整備し、周知し苦情があった場合に迅速に対応している。	利用者・保護者の苦情等について、対応する体制を整備している。迅速に対応する体制もある。苦情等がないように最新の注意を払う。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100		SNSを利用し、事業所での様子を発信している。	SNSの活用を、今まで以上に活発にし、保護者への情報発信に努める。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100		個人情報の取り扱いについては、細心の注意を払っている。	これまでと同様に個人情報の取り扱いについては、細心の注意を払っている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100		利用者の日常の様子や進路相談、将来について、面談を通じ保護者・利用者の希望の実現に向け、助言や情報の提供に努めている。	利用者の日常の様子や進路相談、将来について、面談を通じ保護者・利用者の希望の実現に向け、助言や情報の提供に努める。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100		事業所の行事を企画・実施したことがないが、子育てサロンや学校行事等には、参加している。	今後、地域に開かれた事業運営を図っていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100		全てのマニュアルを作成し、職員間で確認、保護者にはHPに掲載し周知している。また、避難訓練等も実施している。	全てのマニュアルを作成し、職員間で確認、保護者にはHPに掲載し周知している。また、避難訓練等を積み重ねて行く。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100		BCPの策定はもとより、避難訓練等を実施している。	BCPの策定はもとより、避難訓練等を実施し、課題の発見と改善策等の検討を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100		契約時やアセスメント・モニタリング時に確認している。	利用開始時に時に服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認し、重大な事故の防止に繋げる。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100		食事やおやつ等の提供はしていない。	食事やおやつ等の提供はしていないが、提供する場合はアレルギー等には十分注意して行く。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われている。	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援を行う。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知している。	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知徹底して行く。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしている。	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をし重大事故の防止に繋げる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		すべての職員（管理者も含む）が、積極的に研修等に参加している。	すべての職員は、積極的に研修等に参加して徹底した虐待防止に努める。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100		入所時に保護者に説明、理解を得ている。	入所時に保護者に説明、理解を得ている。身体拘束を行うことのないように充分注意する。	